

事業所名		ふらっと				支援プログラム（児童発達支援）		作成日	2025 年	9 月	1 日
法人（事業所）理念		ニューロダイバーシティの概念に則り、それぞれの子供の神経多様性を認めながらも、社会生活を生き抜く力を身に付けてもらうべく、エビデンスのある認知行動療法に基づいた支援を提供する。支援の対象はもとより、そのご家庭、学校、など社会全体に対しても働きかけて共生社会の実現を目指す。									
支援方針		こどもと家族のエンパワメントを目指して、こども達がやりたいことにもすべきことにもバランスよく取り組める支援をベースに、日常生活における基本的動作の習得の支援、集団生活でストレスを感じずに過ごすことを目標としたソーシャルスキルトレーニング、人間関係の基盤となる親密な大人への愛着を形成し、家庭内のストレスや緊張を低減するための家族支援（ペアレントトレーニング）を支援方針とする。									
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無		なし			
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	・活動の流れを、絵や文字を使って提示し、来所～退所までの活動ルーチンを形成する。 ・疲れ、眠気など自分の体のサインを知って、休む・大人に伝えるなど必要な対処が取れるよう支援する。 ・整理整頓、準備や片付け、衣服の着脱など身の回りのことを自分で行えるようにスモールステップで行動形成する。									
	運動・感覚	・粗大運動により、ボディイメージの獲得や身体全体の使い方を育む。 ・座位保持のための体幹形成（バランスボール、トランポリンなど）を行う。 ・感覚統合あそびにより、平衡感覚や固有感覚の弱さによる生活上のつまずきを和らげる。 ・指先の感覚を養う微細運動（箸つかみ、紐通しなど）で手先の巧緻性（器用さ）を高める。 ・感覚の偏りに対するツール利用など環境調整支援を行う。 ・ビジョントレーニングにより、視覚機能を高める。									
	認知・行動	・機能分析や強化子の利用で、困った行動を減らし、代替行動の獲得を目指す。 ・場面の切り替えにくさやこだわりについて、行動調整できるよう支援する。 ・アンガーマネジメントを教え、気持ちのコントロールができるよう支援する。									
	言語 コミュニケーション	・感覚的な遊びから、ごっこ遊びや創作遊びへと興味関心を広げ、他者とイメージを共有する経験を積み重ねる。 ・興味に合わせた遊びを提供し、やり取りを通して語彙力を高め、自身のイメージや思いを他者に伝えられるよう支援する。 ・言葉が獲得しにくい場合の指差し、ジェスチャー、絵カードなど非言語ツールによる伝達支援を行う。									
	人間関係 社会性	・ふれあい遊び、親子遊びを通して、身近な人との愛着・信頼関係形成を図る。 ・ブロック、電車などの玩具を用いた大人と1対1の関わりから開始し、同年代の小集団の関わり、ルールのあるカードゲームやボードゲームに移行し、遊びの中で友達の認識と他者の理解、ルールの理解を伝える。									
家族支援		・子どもの発達状態や特性理解に向けた相談支援、情報提供。 ・日々の様子をラインやメールなどで共有したり、随時面談を行う。 ・家庭での困りごとや悩み事などの相談や支援方法などを一緒に考える。 →気軽に相談できる関係づくりを心がける。				移行支援		・就園・就学先や医療機関、他の通所先との情報共有 ・環境変化に向けての課題提示および実践			
地域支援・地域連携		・地域の公園や公共施設、商業施設での社会体験を通じて地域との繋がりをもてるようにする ・医療機関の紹介、連携、情報提供を行う。				職員の質の向上		・法定研修（コンプライアンス、虐待防止、ハラスメント防止等） ・スキルアップのための研修 ・外部研修への参加 ・ケース検討会等			
主な行事等		・季節に合わせた行事・イベントの実施 ・避難訓練、感染症・熱中症対策指導									